

# 流通販売方法の改革による海女漁業の収益性の向上

## アワビ蓄養中のへい死軽減対策の確立

### アワビ蓄養中の課題

- ・蓄養中のへい死によって仲買による買い取り価格が抑えられている

### 目標

- ・へい死の発生状況の把握
- ・蓄養するアワビが死亡する要因を検討

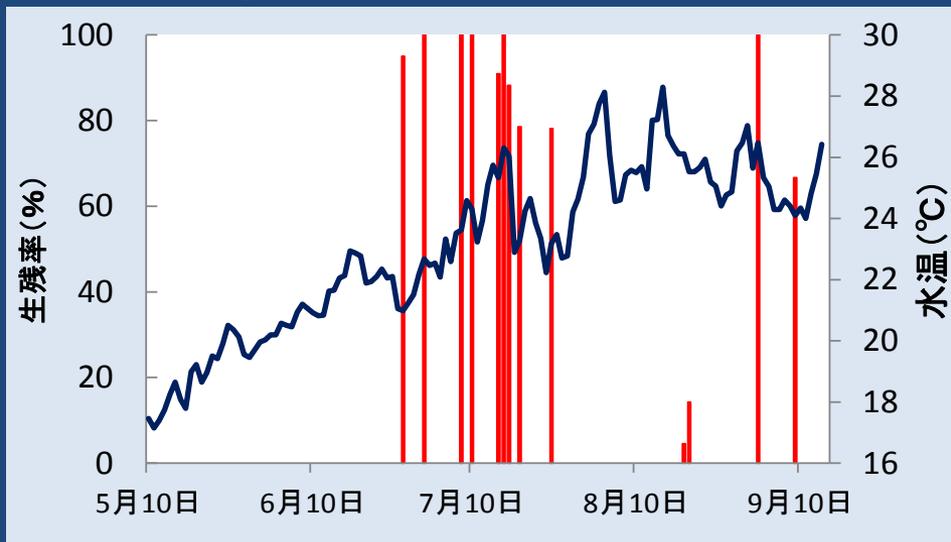


へい死の防止による流通の安定化

# 蓄養中のアワビのへい死状況

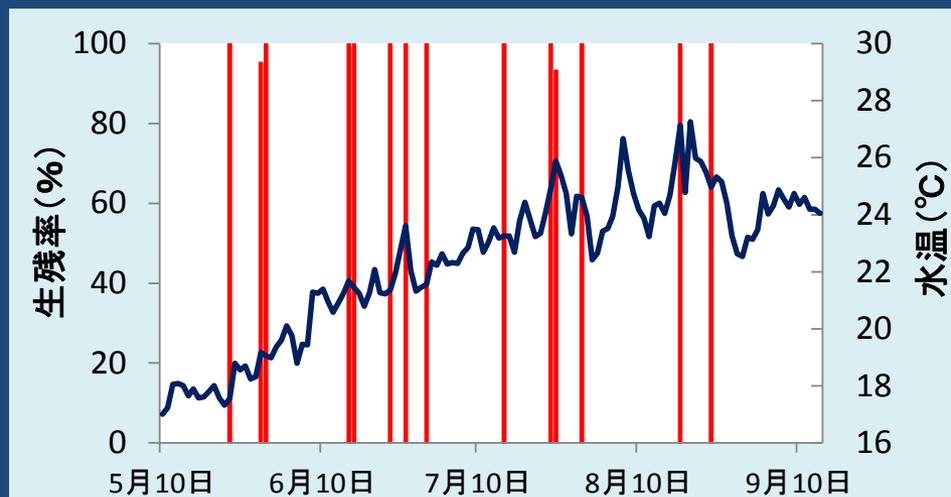
三重県栽培漁業センターで飼育されている親アワビ

2013年



2013年の夏季はへい死が多かった

2014年



7月～8月の平均水温

2013年:24.9°C

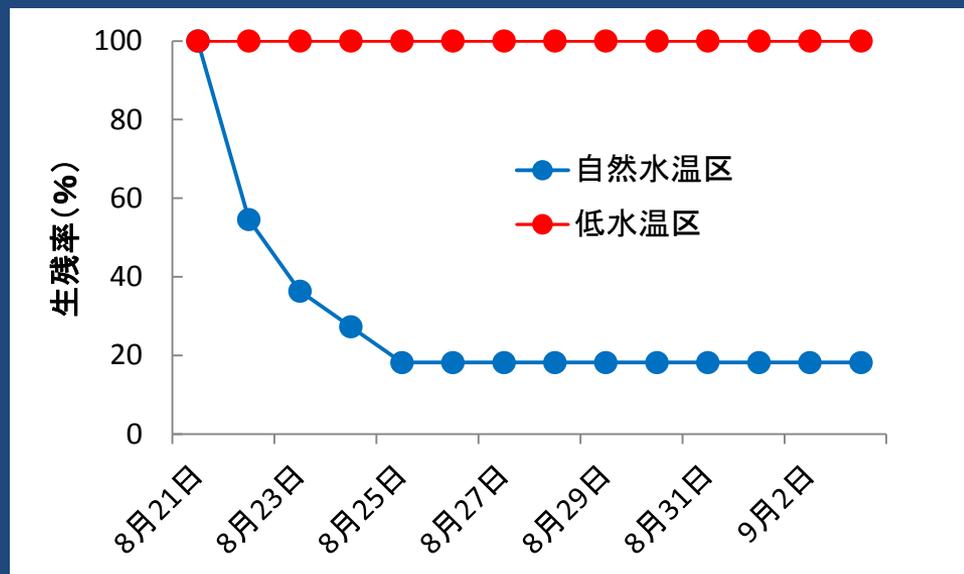
2014年:24.0°C



漁場の高水温が原因の可能性

# 蓄養中のへい死を防ぐためには？

【H25年度の結果】



平成25年8月20日からの実験

自然海水26.1°C: 生残率18%

冷却海水19.4°C: 100%

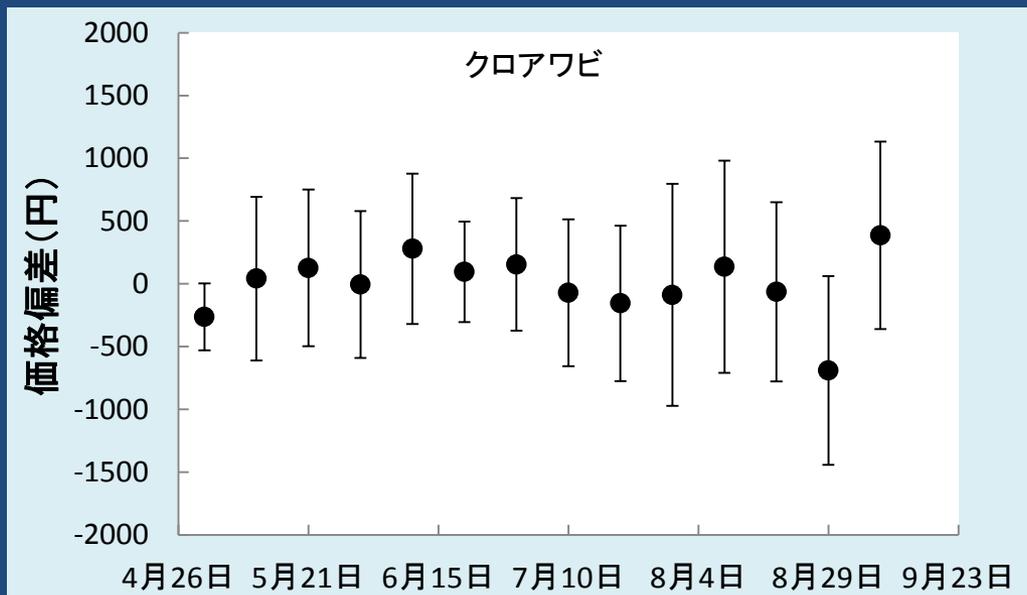


19.4°Cで蓄養すると大丈夫

自然水温でも4日生存できればOK



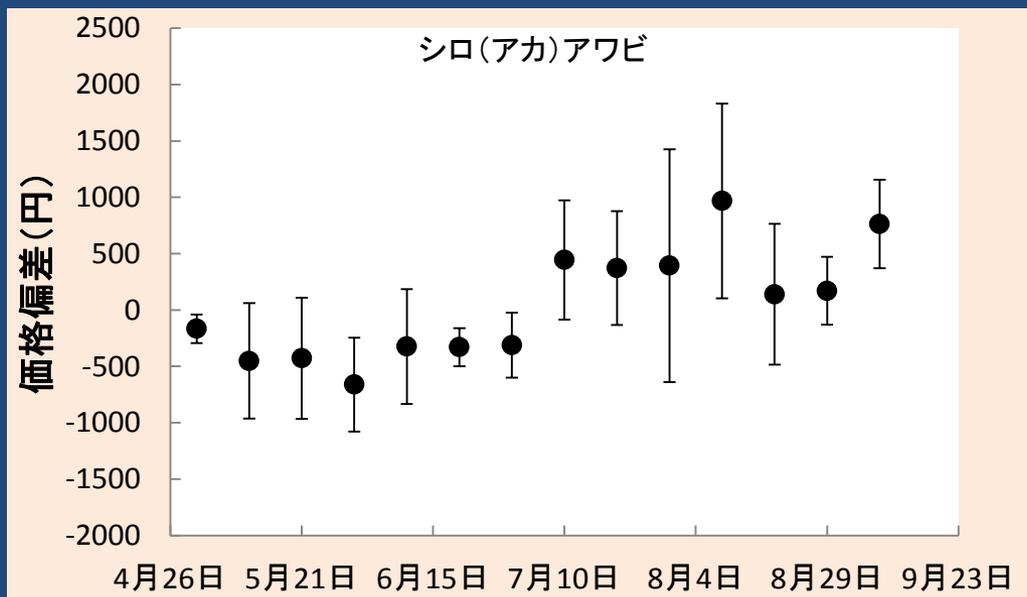
# アワビの市場価格の季節変動(平成19年~26年の平均)



- ・クロアワビは季節変動が小さい
- ・年によって変動パターンは様々



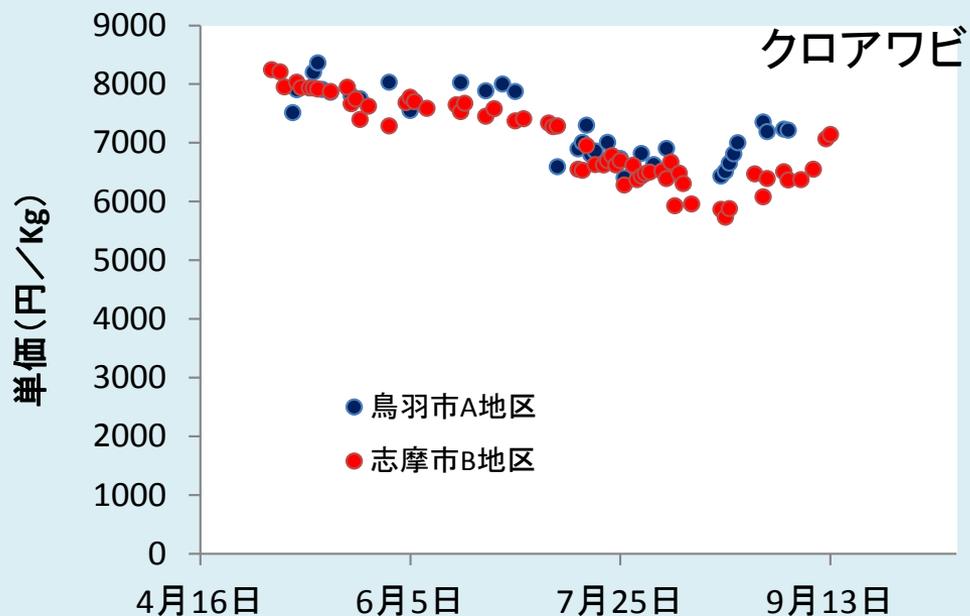
大口の需要の有無によって影響を受けている



- ・シロアワビ(メガイアワビとマダカアワビ)は7月以降に価格が上がる傾向

ただし、  
次第に価格が上昇:H23  
6月が最も高価:H20

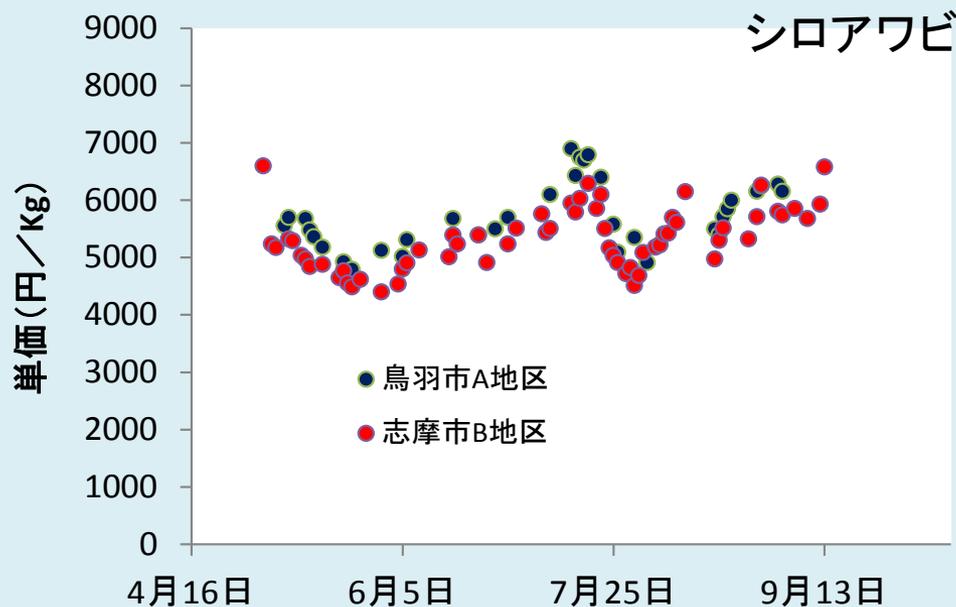
# アワビの市場価格の地域差(平成25年)



アワビの市場価格は鳥羽市と志摩市で同じような動きを示す



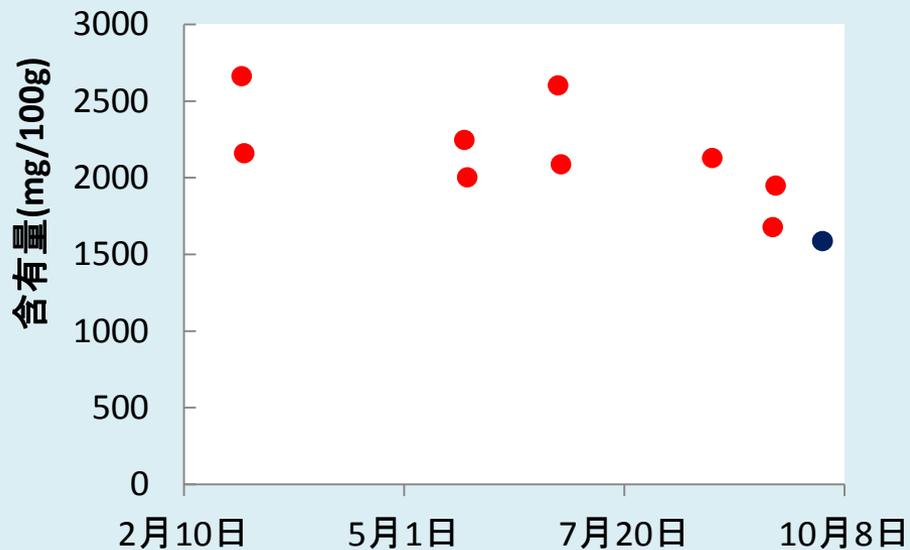
アワビの需要は地区や市を越えて動いている。



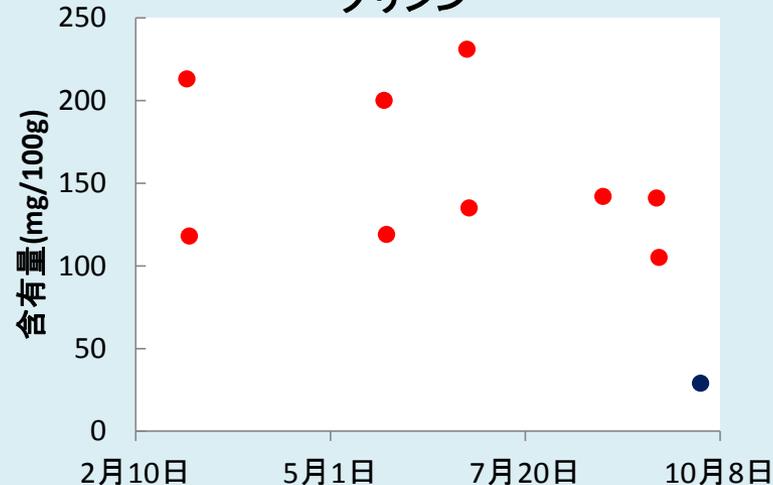
アワビの価格形成要因は明らかになっておらず、アワビを有利に販売するには今後調査を進める必要がある。

# アミノ酸含有量の季節変動

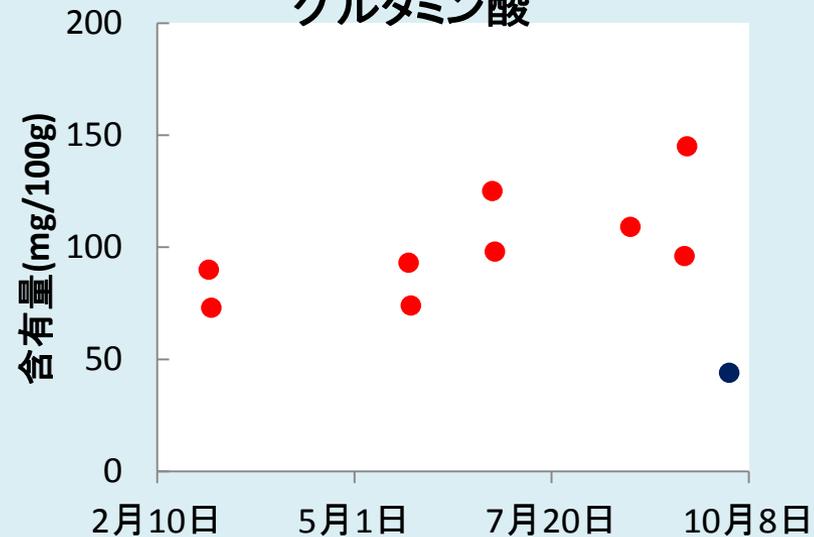
## 19種のアミノ酸総量



## グリシン



## グルタミン酸



- ・アミノ酸総量は3月、6月に多い
- ・グリシンも同様の傾向
- ・グルタミン酸は夏季に多い

エゾアワビはアミノ酸が少ない＝旨みが少ない